

感染症に強い地域づくりについて

1 現状と課題

令和 2 年 1 月頃からの新型コロナウイルス感染症の流行により、外出自粛等による地域住民の心身の状態の悪化への懸念や新たな生活様式に対応した事業実施の工夫などの取組が求められている。

また、外出自粛や、感染拡大の防止により、地域福祉の担い手等の負担の増加や、地域のつながりの希薄化など地域福祉を取り巻く状況が変化している。

今後は、コロナを始めとした感染症対策を踏まえた地域福祉の担い手等に対する支援や感染症に強い地域づくりが重要になるとと思われる。

2 目指すべき方向性

コロナ禍において、オンラインでの会議・イベントや新たなつながり方を工夫するなど、感染リスクを抑えながら、地域の活動やつながりの推進に対してより効果的な取組の促進につなげる。

また、地域の担い手等の育成に向けて、さらに研修受講の機会を拡大していく必要があることから、既存の集合研修だけでなく、オンラインでの実施を積極的に推進する。

3 取組事例

(1) 新型コロナウイルス感染症と地域支え合い活動の両立

令和 2 年 1 月頃からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と人との密接な接触が制限され、地域支え合い活動にも大きな影響が出ている。特に高齢者は感染すると重症化のリスクが高いとされていることから、外出を自粛する人もいる。

一方で、閉じこもりによる心身の状態の悪化が懸念されている。感染リスクを抑えながら活動を継続していくことが求められている。インターネットの活用はもちろん、対面での活動についても 3 密（密集、密接、密閉）を避け、「新しい生活様式」を踏まえた対応を行うことで継続が可能である。県では、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぎつつコミュニティ活動を進めるうえで 注意すべきポイントをまとめたリーフレット「感染リスクを抑えながらコミュニティを楽しむコツ」を発行している。

(2) リモート認知症カフェの支援

認知症カフェ等の設置・普及 市町村では、地域の実情に応じて認知症地域支援推進員等が企画するなど、認知症の人が集まる場や認知症カフェなどの、認知症の人や家族が集う取組を進めている。

コロナ禍において、多くの認知症カフェが休止となったことから、県ではリモート認知症カフェの支援を実施している。リモートでの実施を取り入れることにより、感染症予防の観点以外でも、実施場所に行くことが難しいときなどに自宅から参加できるようになるという効果もあることから、今後の新しい形の認知症カフェ開催の定着につながると考えられる。

地域の認知症カフェなどの情報を認知症ポータルサイトなどで発信するほか、リモート認知症カフェの実施状況を共有し、コロナ後も見据えた新たな交流のかたちを広めていく。